

目指す学校像	「家庭・地域とともに、ねばり強く生き抜く子どもを育てる大成小学校」 ○児童にねらいとする資質、能力、態度が身に付く学校 ○児童一人ひとりが大切にされる学校 ○美しく環境が整えられた学校
重点目標	1 確かな学力が定着し、分かる、できる喜びを味わえる授業 2 児童一人ひとりの自己肯定感を高める教育活動、生徒指導・教育相談体制の充実 3 コミュニティ・スクールを核とした「地域を元気にできる」学校の推進 4 使命感と向上心を持ち、子ども一人ひとりの良さを認め、可能性を引き出す教師集団

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日令和6年2月28日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p><現状> ○学習状況調査では、概ね良好な結果である。 ○体験的な学習や調べたり、それらを発表したりする学習に意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p><課題> ○自分の考えをもち自信をもって表現していくところに課題がある。 ○タブレット端末を効果的に活用した授業、主体的対話的で深い学びの授業などを増やす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力の高い教師集団の構築、教職員の資質上の推進 ・学ぶ楽しさを実感できる楽しい、魅力的な授業の創出 	<p>①「学びの指標」等に示された授業改善の視点と方法に沿った自己評価やOJTを実施する。 ②授業を見せ合い議論する。 ③各種教育活動のねらいの再考、行事計画や日課表の継続的な検討。</p> <p>①タブレット端末の効果的な活用による「学びの自律」と「個別最適な学習」そして「協働的な学習」の実現を図る。 ②答えが1つではない問題に取り組ませる問題解決的な学習の計画的な実施を進める。 ③コーチングの視点を導入した「教えない授業」の実施→「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業を進める。</p>	<p>①人事評価を活用しOJTにより授業力向上が図れたか。 ②教職員の対話が増え資質向上につながったか。 ③業務改善が図られ時間外勤務の削減等につながったか。</p> <p>①「よい授業」アンケートの因子①因子④が市平均より高いか。 ③ 教員アンケートにおいて「実施することができた」の回答が8割を超えたか。 ④ 教員アンケートにおいて、授業の中に「主体的に学ぶ」授業が構築されたという回答が8割を超えたか。</p>	<p>①全教職員が自己申告シートにこのことを位置付け、年間を通して実践。 ②国語の授業を中心に全校で取り組む。職員室での対話が増えた。 ③業務改善が図られ、時間外在校時間の縮減。</p> <p>①よい授業の因子は市の平均と同様であった。 ②課題解決、複線型の授業を多くの教員が実践。8割以上達成。 ③全校で主体的・対話的で深い学びを意識して日々の授業を展開。8割以上を達成。</p>	B	<p>①次年度も年間を通して全校で実践。 ②次年度も国語の授業を中心に全校で取り組む。 ③時間外在校時間を減らすため次年度も業務改善に取り組む。</p> <p>①よい授業の因子を意識した授業改善に次年度も取り組む。 ②課題解決、複線型の授業改善に次年度も取り組む。 ① 全校で主体的・対話的で深い学びを意識して教育活動を継続して展開。</p>	特に問題はない。提案の通りでよい。 不登校の児童の学習についても工夫を。
2	<p>(現状) ○いじめ解決に向け、校内委員会等を活用し、いじめ問題に対応した。 ○安全点検では毎月2、3件の不良箇所が見つかった。 ○車の交通量が多い箇所もあり、安全指導の徹底を図ってきた。</p> <p>(課題) ○保護者からの相談でいじめが発覚することがあり、いじめの解決に時間を要する案件も見られた。 ○校庭の遊具は雨風にさらされているため、常に点検が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の一層の充実 ・安全指導と安心安全な環境整備の充実 	<p>①児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、指導・支援を行う。</p> <p>①情報端末を活用し、校内におけるケガの発生場所、件数、原因などを分析し、児童と結果を共有できるようにする。 ②教員と児童委の協働で、安全な生活の実現に向けた目標を児童が設定。</p>	<p>①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校自己評価に係る児童アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。</p> <p>①学校評価に係る児童アンケートに「安全を考えて行動するようになった。」と回答する児童の割合が80%以上となったか。 ②児童が安全な生活の実現に向けて目標を設定し、けがの件数が減少したか。</p>	<p>①アンケートに限らず日々の児童の様子を端末に書き込み、皆で閲覧できるようにした。 ②児童アンケートで「先生は児童をよくみてくれている」の項目に90%以上の児童が「そう思う」と回答。</p> <p>①安全を考えて行動するようになった。」と回答する児童の割合が80%以上となった。 ②児童一人ひとりが安全に対する目標をもって生活するようになった。</p>	B	<p>①端末の利活用を進め、全校の教職員が児童理解を深めていく。 ②「先生は児童をよくみてくれている」学校づくりを次年度以降も継続。</p> <p>①児童一人ひとりが安全を考えて行動する安産教育のより一層の充実を図る。 ②児童一人ひとりが安全に対する目標をもたせる。</p>	特に問題はない。提案の通りでよい。 大成小学校の教職員は子どもたちをよくみている。
3	<p>(現状) ○昨年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくことを共有した。</p> <p>(課題) ○今年度は、昨年度に学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域、企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す児童の姿を地域全体で共有するため教育活動公開 ・児童の自律につながる継続的な取組に向けた「大成小コミュニティ・スクール成長プラン」の策定と行動 	<p>①本校Web内に、新たに学校運営協議会及びSSNの情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。</p> <p>②学校行事等について、学校に関わる人々がオンラインで参観できるようにし、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。</p>	<p>①学校自己評価に係るアンケートで、「コミュニティ・スクールの一員として目指す児童の姿を共有できた。」と回答する割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「児童の成長に対する関心が高まった。」と回答する割合が80%以上となったか。</p> <p>①学校自己評価に係るアンケートで「コミュニティ・スクールの取組により、児童に自尊意識が育っている。」等、児童の自律について肯定的な回答をする割合が高まっていったか。 ②アンケートで、「学校、家庭、地域が協働し、児童の自律につながる取組が行われている。」と回答する割合が80%以上となったか。</p>	<p>①「コミュニティ・スクールの一員として目指す児童の姿を共有できた。」と回答する割合が80%以上となった。 ②学校自己評価に係るアンケートで、児童の成長に対する関心が高まった。」と回答する割合が80%以上となった。</p> <p>①「コミュニティ・スクールの取組により、児童に自尊意識が育っている。」等、児童の自律について肯定的な回答をする割合が高まった。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「学校は家庭、地域が協働し、児童の自律につながる取組が行われている。」と回答する割合が80%以上。</p>	B	<p>①次年度もコミュニティ・スクールの一員として目指す児童の姿を共有していく。 ②次年度も学校、保護者、ちいきがより一層、児童の成長に対する関心が高めていけるようにする。</p> <p>①児童の自尊意識を高めるため、コミュニティ・スクールと協働で様々な施策を講じていく。 ②学校は家庭、地域が協働し、児童の自律につながる取組を次年度も実行していく。</p>	特に問題はない。提案の通りでよい。 地域行事への学校、児童、保護者の関わりをより一層深めていきたい。
4	<p>(現状) ○ICTの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができていく。</p> <p>(課題) ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる職場環境づくりが求められる。 ○自分が担当しない教科について、教材研究をしたり、よい授業のイメージを共有したりすることが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地のよい(Well-Being)学校をつくる。 	<p>①年間を通して、毎月1回、ICTの活用方法について、全ての教員が学ぶ「One-team 研修(仮称)」を実施する。 ②一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を設定し、目標達成に向けた授業を学期に1回以上公開する。</p> <p>①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、結果として80%以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ③2学期の始業までに「大成小版プラットフォーム」の運用を開始し、教員が授業改善に役立てられる状態になったか。</p>	<p>①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になった。 ②全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善策に取り組み80%以上の教員が目標達成を実感することができた。 ③2学期の始業までに「大成小版プラットフォーム」の運用は開始できなかったが、教員が授業改善は日々進んでいる。</p>	B	<p>①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する。 ②全ての教員が、授業改善策に取り組み魅力ある授業を創造する。 ③「大成小版プラットフォーム」の運用定着と周知。</p>	特に問題はない。提案の通りでよい。	